

登録コード	UAA04500	開講年度	2026				
授業題目	日本語文化論				担当教員	渡邊 匡一	
					副担当	鈴木 裕也	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				⇔	日本語による諸文献や音声資料などを対象化し、客観的な視点に立った思考ができるようになる。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	日本語に関する諸事象について、常識や通念にとらわれない問題発見能力を身につけ、その問題を解決に導くことができるようになる。	
(2)授業の概要	2人の教員がそれぞれの立場から日本語文化研究に関するテーマを取り上げ、その解説・読解に関わる諸問題を、日本文学、日本語学の立場から講ずる。授業理解に基づき、受講者が課題発表で十全な説明ができるようになることを到達目標とする。上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・回答を往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生には課題論文の読み込みや、資料読解・解説の実践を課す。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（全15回の概要説明） 第2回：日本語を共時的に分析する（音声・音韻） 第3回：日本語を通時的に分析する（音声・音韻） 第4回：日本語を共時的に分析する（語彙・文法） 第5回：日本語を通時的に分析する（語彙・文法） 第6回：日本語の文字・表記 第7回：日本語と漢字・漢文 第8回：2～7回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 第9回：日本語を「読む」ということを考える 第10回：歴史書のリテラシー「日本紀の家」における書籍の形成と展開－ 第11回：和歌のリテラシー「歌の家」における書籍の形成と展開－ 第12回：書籍を「選ぶ」ということを考える 第13回：大名、名主、寺院における蔵書形成と学問 第14回：海外の日本書籍蔵書 第15回：9～15回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 定期試験は実施しない						
(4)成績評価の方法	第8回と第15回に行うプレゼンテーションとディスカッションを、到達目標への到達度の観点から判定する。プレゼンテーションのほかに課題を課すことがあるので、授業計画で確認すること（課題がある場合は課題発表も成績評価の対象となる）。第2回～第8回と第9回～第15回それぞれを50点満点とし、その合計点で評価する。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】日本語文化に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、収集した情報を分析・提示できる力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】日本語文化に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、収集した情報を分析・提示できる力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】日本語文化に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、収集した情報を分析・提示できる力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】日本語文化に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、収集した情報を分析・提示できる力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	1) プレゼンテーションや課題発表のための事前準備には、参考書や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 2) 必ずレジュメを準備すること。（パワーポイントの利用は任意） 3) 利用した参考文献は全てレジュメに明記すること。						
(7)履修上の注意	毎回出席することが前提。無断欠席・遅刻は厳禁。やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。						
(8)質問,相談への対応	授業外での質問は、メールでアポイントメントをとった上で、研究室を訪ねられたい。メールアドレスは、渡邊は、kwata@shinshu-u.ac.jp、鈴木はyuyasuzuki@shinshu-u.ac.jp。						
【教科書】	テキスト（論文等）は授業中に配布する。						
【参考書】	衣畑智秀（編）『基礎日本語学 第2版』（ひつじ書房2023） 前田雅之『書物と権力』（吉川弘文館2018） 他、授業内にて紹介する。						